



生かされ、生きるチカラ。

## 病気のおかげさまで、 ほんとうの幸せを感じている。

川崎教会 廣瀬容成さん

平成15年のある日、廣瀬さんは仕事帰りに、突発性の動悸で倒れた。ちょうどその頃、親友が妻と娘を残して心臓発作で突然亡くなり、同じような家族を持つ身として他人事には思えない衝撃を受けた。以後もときどき強い動悸に襲われるため、不安からバス通勤ができずタクシーで会社に通う日々。そんな折り、古くからの先輩が廣瀬さんの苦悩のすべてを聞き取ってくれたことで、苦さがやわらぐ。また、人間関係で悩んでいた時、「才覚しても人の気持ちは変えられない。すべてを仏さまのおはからいと見るといい」という亡き母の言葉がストンと胸に落ちた。これらの事は、廣瀬さんを前向きに変えるきっかけとなり、人の評価も将来の不安感も気にしない心境を保てるようになった。さらに、廣瀬さんと同じ症状で悩んでいる人にアドバイスする機会があり、相手を心配する、人を思いやることで自身の心をも豊かにすることに気づかされた。こうして心穏やかに過ごせるようになったいま、廣瀬さんは「病気のおかげさま」と心のなかで合掌し、ほんとうの幸せを感じている。



## 気にしない人

私たちはふだん、いろいろなことを気にして暮らしています。そして、気にする必要のないことや、気にしても仕方のないことにとらわれて、悩んだり苦しんだりしていることも多いようです。曰く、人からの評価やうわさ話にふり回されていららしたり、まだ起きてもない先のことを心配して心を曇らせたりすることはないでしょうか。私たちはつい、権威や世俗の価値に照らして人と自分の評価を比べ、さらにはものごとを損得勘定で判断しがちです。ところが仏教では、出会う人も、身の回りで起きるできごと、すべてが、私たちに大切なことを教える仏のはからいであると教えています。ものごとをそのように受けとめると、そこに優劣や序列や損得はありません。したがって、そういうことにとらわれる必要もないのです。諸行無常、諸法無我、一切皆苦といった仏教の根本とともに、すべてを仏のおはからいと見ることや自らを深く省みることを繰り返すことで、「気にしない人」に自ら変わっていくのだと思います。二月十五日は、釈尊の涅槃会です。涅槃とは「すべての束縛から解脱すること」ですが、束縛を放れて思いやり生きることで、自由で明るい人生を約束するのです。

# 立正佼成会